（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成２８年度　学校自己評価システムシート（県立川口北高等学校）

目指す学校像	知性と教養を身に付けるとともに、高い志と品格を備え、互いに高め合い敬い協力し合う、日本及び国際社会の進展に貢献する生徒を育成する。

重点目標	1　自ら勉学に真摯に取り組む姿勢により学力の向上を図る。 2　満足度の高い生徒全員の進路希望の実現を図る。 3　文武両道の校風を堅持し、学業及び体力、精神力の充実を図る。 4　家庭、地域、小中学校との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	３名
	生徒	３名
	事務局（教職員）	１０名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（１月２７日 現在）			実施日　平成２９年２月７日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	進学校として、生徒の希望進路の実現は決して譲ることのできない生命線であることから、教員の授業改善・指導力向上に継続して取り組み、生徒の学力向上につなげていく必要がある。 また、より積極的に自学自習に取り組ませるため、生徒の志を高める手立てを工夫・改善するとともに、時間管理能力と予習→授業→復習の学習サイクルを身に付けさせる必要がある。	主体的・能動的な学習姿勢の醸成	①教員の授業力向上を図るため、「校内授業公開」、「研究授業」、「学校進学力パートナーシップ推進事業」を実施する。 ②生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するため、アクティブラーニングの手法を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善を図る。 ③自ら考え、計画し、勉強に取り組めるよう、自学自習を徹底する。	①校内授業公開の実施状況 ①研究授業、授業研究週間の取組状況 ①学校進学力パートナーシップ推進事業の取組状況 ②アクティブラーニング等、指導方法の工夫・改善の状況 ②生徒が主体的に取り組む授業の実施状況 ③授業以外の学習時間 ③予習・復習の取組状況 ③志を高める働きかけの状況	個人、教科、学年、分掌それぞれが工夫･改善を図りながら、連携･協力して授業改善、学力向上に取り組んだ。 ①新たに外部指導者を招いての授業研究や学校間交流(浦和西高)を実施した。 ②「アクティブラーニング学習観６則」を踏まえた観点で授業公開を実施し、個々の授業改善に役立てた。 ③全職員の協力により、新たに土曜日の自習室開放を実施(32回)した。	A	地域の信頼と期待に応え、県内上位の進学校として、生徒の高いレベルでの進路実現を果たしていく必要がある。 そのために、次年度はより一層授業改善・指導力向上に取り組み、生徒の学力を向上させていく必要がある。 また、生徒がより積極的に自学自習に取り組むために、時間管理能力の向上と「予習→授業→復習」の学習サイクルの定着を図る必要がある。	学校としていろいろ取り組んでいることがよくわかった。今後も生徒のために、工夫・改善に努めてもらいたい。 家庭学習の質を高めるために、過去の取組を洗い直してから次年度の取組を検討する必要があるのではないか。また、家庭での学習方法を生徒に示す必要があるのではないか。 浦和西高校との交流など、外からの刺激はいろいろな面で有効だと思われる。将来的には数多くの学校と交流し、生徒たちにもフィードバックできるとよいのではないか。
2	昨年度は、現役国公立大学受験者数 119 名、合格者数 36 名、早慶上理延合格者数 13 名、GMARCH 延合格者数 96 名であった。関東広範囲の国公立大合格者が増え、後期試験で 6 名が合格、難関私大受験者数が増加するなど、高い意欲と広い視野を持ち、最後まで諦めない粘り強さを見せた。 今年度も分掌等の枠を超えて様々な情報やデータを共有し、共通理解を図りながら、個々の生徒の実態に即した丁寧な指導・支援を継続するなど、組織的な取組を推進する必要がある	自律的に進路を選択・決定をするための目的意識の醸成	進路オリエンテーション、対話週間、三者面談を通して、生徒の進路意識の高揚を図る。また、分掌、学年、教科、部活顧問が一体となった組織的な進路指導の展開を行う。 ①高い志を持ち、それを実現するため、キャリアブックを活用し、キャリア教育を徹底して行う。 ②定期考査、摸試、大学入試センター試験等のデータを共有し、授業、土曜特別学習、補講に生かす。 ③客観的なデータに基づいた大学受験校検討会を年４回実施し活用する。 ④国公立大学セミナー、県立大セミナー、埼玉大学研究会を実施する。また、難関大学を志願する生徒向けの指導を検討する。	①進路オリエンテーション、対話や三者面談、講演会などの実施状況 ①キャリアブックを活用した取組の実施状況 ②教科会、模試分析会等の実施状況 ③受験校検討会の実施状況 ④各セミナー、研究会、補講等の実施状況 ④国公立大学受験者数 ④私立難関大学受験者数	教科・学年・分掌が連携し、教育活動全般を通じて生徒の進路意欲を喚起した。 ①リベラルゼミ（５回）の実施、職員対象の「キャリアだより」発行など、新たな取組をスタートした。 ②スタディサポート、模試、学習状況調査などのデータを分析・共有し、教科指導等に生かした。 ③受験校検討会を４回実施し、情報を共有することで生徒個々の実態に即した丁寧な指導を行った。 ④国公立大学受験者数 191名 現役合格者　57名 早慶上理現役合格者　19名 GMARCH現役合格者 112名 (3月24日現在)	A	生徒の進路意識を涵養し、高いレベルでの進路実現に向け、最後まで粘り強く取り組ませるためには、対話週間等の機会を捉えて、個々の生徒の実態に即した丁寧な指導・支援を継続することが必要である。 そのために、次年度も分掌等の枠を超えて様々な情報やデータを共有し、共通理解を図りながら、組織的な取組を推進する。 また、大学入試の多様化や高大接続に係る大学入学希望者学力評価テスト等について、最新の情報を収集し研修会等で共有するとともに、対応・対策について分掌・教科が連携して組織的に研究・検討を進める必要がある。	生徒の第一希望の進路実現に向けて様々な取組が行われているが、それを次に学年にしっかりと継承し、改善・発展させていくことが大切である。 「どうして勉強しなくてはいけないのか」という将来のビジョンを見つけるための意識付けができれば、モチベーションが上がって生徒も変わってくるのではないか。先生方には、そういった部分のサポートをぜひお願いしたい。 将来的な職業の方からのアプローチを取り入れると、意識喚起につながり、キャリアアップも図れるようになるのではないか。 大学入試の多様化や高大接続に係る諸課題については、積極的に情報を収集し、教員だけでなく、生徒や保護者にも情報を提供していただきたい。
3	保護者や地域からは「文武両道の進学校」としての評価が高く、運動部・文化部ともに全国大会・関東大会に出場するなど成果も上げている。 学年・分掌等と部活動顧問で連携し、品格と教養を兼ね備えた、情操豊かで協調性に富む、高いレベルで文武両道を実践する生徒の育成に継続してあたる必要がある。	学習、生活両面の基本的習慣の確立と自己管理能力の向上	学年、分掌及び部活動顧問が連携し、高いレベルの文武両道を確立する。 ①バランスのとれた指導を行い、学業と部活動を両立させる。 ②自律的に勉強と部活動の両立が図れるような指導体制を確立し、生徒各々が計画的に時間を管理する。	①部活動の加入率 ①部活動の実績 ①②部活動の活動状況 ①②授業以外の学習時間 ②生徒の出席状況(遅刻数) ②携帯電話、スマートフォンの使用状況	生徒は学業、行事、部活動等に熱心に取り組み、文武両道を実践した。 ①部活動加入率は97.2%。男子バスケットボール部が５年連続で関東大会に出場するなど、多くの運動部・文化部が活躍した。 ②生徒の身体的・精神的疲労の回復、障害や事故の防止、学習時間の確保等に留意し、活動時間や休養日を適切に設定するなど、部顧問の共通理解のもと、協力して取り組んだ。	A	次年度も凡事を徹底し、「明るく爽やかな挨拶」「気持ちの良い返事」「清潔感あふれる服装」「心を込めて行う清掃」など品格と教養を兼ね備えた情操豊かで協調性に富む生徒、高いレベルで文武両道を実践する生徒の育成に継続してあたる必要がある。 また、部活動においてスポーツ障害やバーンアウトの予防、バランスのとれた生活と成長の確保の観点から、これまで以上に適切な休養日等の設定と実現に努める必要がある。	生徒のスマートフォン使用は日常化していることから、ルールやマナー、インターネットの危険性などについて、専門家の講演等を実施するなど、指導を充実させてもらいたい。 挨拶や服装などの生活面については、部活動からの働きかけが大きいので、運動部・文化部にかかわらず、各顧問が共通認識を持ち、協力して指導をしてもらいたい。 休養日や適切な活動時間の設定など、部活動によって差が出ないよう、各顧問の共通理解を十分に図ってもらいたい。
4	情報発信や地域連携に努めているが、ホームページやメール配信を活用してのリアルタイムな情報の発信、学校説明会の時期・内容・資料等の工夫・改善、学校案内の改訂など、より良質な情報を継続して提供していく必要がある。 また、あらゆる教育活動を通して保護者と連携を深め、生徒・保護者・教員がチーム川北として一体となって取組を推進するとともに、地域の小中学校や病院等の施設との交流にも積極的に取り組む必要がある。	家庭や地域等への積極的な情報発信と連携・協力の推進	①保護者や地域、小中学校に本校の教育活動や魅力を伝えるため、学校説明会や授業公開等を充実させる。 ②学校の教育活動を積極的に発信し、KAWAKITAキャンパス通信の発行やホームページを充実させる。 ③チーム川北として保護者と連携を密にし、PTA活動の一層の活性化を図る。 ④地域の小中学校や病院・施設等との連携を強化する。	①学校説明会、授業公開等の参加者数 ①学校見学会、上級学校訪問等の対応数 ②KAWAKITAキャンパス通信の発行回数 ②ホームページでの情報提供回数 ③メール配信による情報提供回数 ③行事などの保護者等の来校者数 ④小中学校や病院・施設等との連携回数	あらゆる機会を捉えて本校の取組や魅力を家庭や地域等に発信した。 ①説明会実施時期、個別相談会や中学教員等対象説明会の新規実施など、本校の魅力を伝える工夫を行った。 ②７月から新ホームページを公開、キャンパス通信、メール配信と合わせて積極的に情報発信した。 ③ＰＴＡ用のスタッフブルゾン等を作成したことにより、各行事に一体感を持って積極的に協力するなど、活性化が図れた。 ④新たに地元の自治会、小学校、警察署との連携を行った。	B	次年度も学校側から様々な手段で最新の情報を数多く発信し、保護者や地域、小中学校等に本校の教育活動や魅力を伝えていく必要がある。 また、地域や小中学校に積極的に働きかけ、生徒会や部活動、有志生徒との連携・協力の機会を新たに設定したり、ボランティア活動などの校外活動に積極的に取り組ませたりするなど、生徒・教職員の地域貢献に対する意識を向上させ、保護者も含めた「チーム川北」として一体となって開かれた学校づくりを推進する必要がある。	地域や小学校、中学校は高校のことがよくわからないので、情報を様々な方法で数多く発信してもらいたい。 近くに小学校と中学校があるのだから、部活動で小学校や中学校に指導に行ったり、高校生が土曜日に小学生や中学生の学習サポーターを行ったりすることで、地域とのつながりが出てくるのではないか。 小学校や中学校の学校行事（例えば合唱祭など）を高校の施設（体育館など）で実施できると、小中学生やその保護者に高校のことを知ってもらう機会になるのではないか。